

## 日本の株式市場

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

### 市場の動向

日本株式市場の代表的な指数である東証株価指数 (TOPIX) は、2日比で1.44%下落しました。

日本株式市場は、前週末に発表された4月の米雇用統計が堅調な結果であったものの、ウクライナの暫定政権と親ロシア派の武力衝突によって地政学リスクが意識され、投資家によるリスク回避の動きが広がったことなどから、下落しました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 12日発表 経常収支 (3月)
- 15日発表 GDP (国内総生産、1-3月期、1次速報値)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

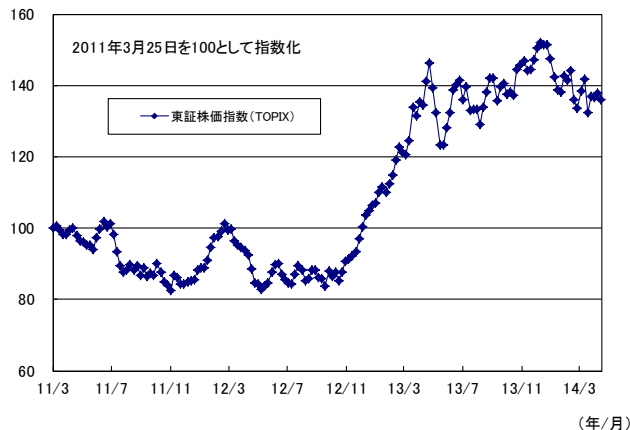
先週の騰落率

**-1.44%**

先週の相場動向



<期間> 2011年3月25日～2014年5月9日



東証株価指数 (TOPIX)	2014/5/2	2014/5/9	騰落率
	1,182.48	1,165.51	-1.44%

<出所> ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

東証株価指数 (TOPIX) の指数値及び TOPIX の商標は、株式会社東京証券取引所 (以下「東証」といいます。 ) の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用など TOPIX に関するすべての権利及び TOPIX の商標に関するすべての権利は東証が有します。

## 世界の株式市場

### 市場の動向

海外株式市場全体の動きを表す代表的な指数である MSCI-KOKUSAI 指数は、2日比円ベースで、0.67% 下落しました。

米国株式市場 (現地通貨ベース) は、FRB (米連邦準備制度理事会) 議長が緩和的な金融政策の必要性を強調したことなどから、上昇する局面もありましたが、米経済の回復ペースへの懸念拡大やウクライナ情勢の悪化などを背景に、週間では下落しました。

欧州株式市場 (現地通貨ベース) は、ウクライナ情勢の悪化が嫌気されたものの、FRB 議長の緩和的な金融政策の姿勢に加え、ECB (欧州中央銀行) 総裁が更なる金融緩和措置の可能性を示唆したことなどをを受けて、上昇しました。

アジア (日本を除く) オセアニア株式市場 (現地通貨ベース) は、4月の中国 HSBC 製造業 PMI (購買担当者景気指数) 確定値が市場予想を下回ったことや、商品市況が軟調に推移したことなどをを受けて下落しました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 13日発表 米小売売上高 (4月)
- 15日発表 ユーロ圏 GDP (域内総生産、1-3月期、速報値)
- 15日発表 米鉱工業生産指数 (4月)
- 16日発表 米住宅着工件数 (4月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

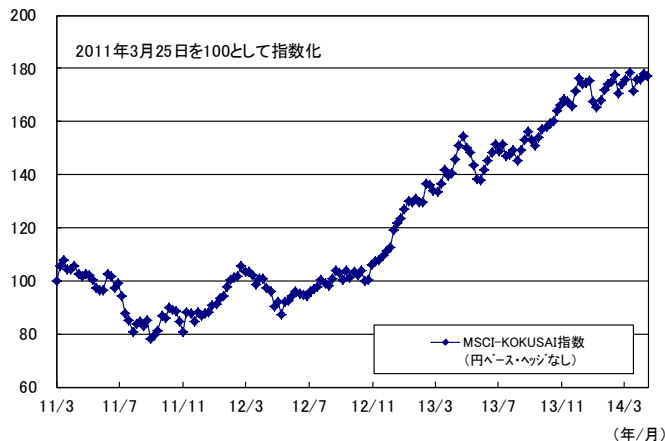
先週の騰落率

**-0.67%**

先週の相場動向



<期間> 2011年3月25日～2014年5月9日



MSCI-KOKUSAI 指数 (円ベース・ヘッジなし)	2014/5/2	2014/5/9	騰落率
	2,089.20	2,075.15	-0.67%
円/ドル	102.25円	101.71円	-0.52%
円/ユーロ	141.77円	139.92円	-1.31%

<指数出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成  
<為替出所> 当該日ロンドン時間16時発表のWMOライターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

MSCI-KOKUSAI 指数は、MSCI が開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

## 日本の債券市場

### 市場の動向

日本の債券市場動向を表す代表的な指標であるNOMURA-BPI総合は、2日比で0.03%上昇しました。  
日本債券市場は、ウクライナ情勢の混乱や米国の金融緩和維持への期待をきっかけに、外国為替市場で円高が進展する中で、国内景気への悪影響が懸念されたことなどから、上昇して始まりました。しかしその後は、金利水準の低さを理由に機関投資家が積極的な国債購入を控えたことなどから、日本債券市場は週後半にかけて上昇幅を縮小しました。週間では上昇しました。  
長期金利の指標となる10年国債利回りは、2日比でほぼ横ばいの0.61%となりました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 12日発表 景気ウォッチャー調査(4月)
- 15日発表 GDP(1-3月期、1次速報値) など

	2014/5/2	2014/5/9	変化幅
日本10年国債利回り*	0.61%	0.61%	-0.00%

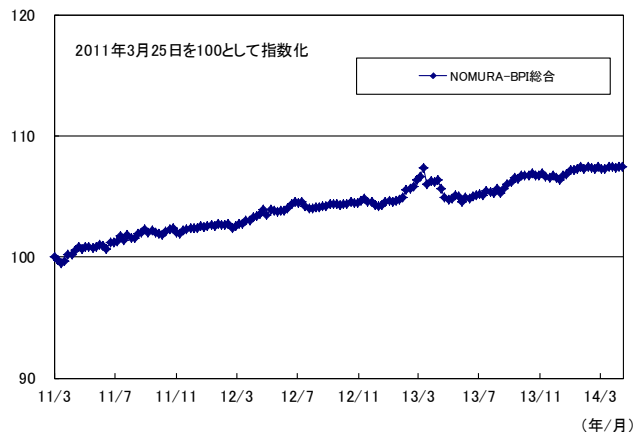
※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

騰落率がプラスの場合: 😊  
騰落率がマイナスの場合: 😞  
騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
0.03%	😊

<期間>2011年3月25日~2014年5月9日



NOMURA-BPI総合	2014/5/2	2014/5/9	騰落率
	353.58	353.68	0.03%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

NOMURA-BPI総合は、野村証券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他の権利は野村証券株式会社に帰属しております。また、野村証券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

## 世界の債券市場

### 市場の動向

世界債券市場の動きを示す代表的な指数であるシティ世界国債インデックスは、2日比円ベースで、0.75%下落しました。  
米国債券市場(現地通貨ベース)では、4月の米ISM(供給管理協会)非製造業景況感指数が市場予想を上回ったことなどを背景として、債券利回りは上昇(価格は下落)しました。  
欧州債券市場(現地通貨ベース)では、ECB総裁が6月の追加緩和実施を示唆した一方、米国債券市場で利回りが上昇したことなどから、ドイツ国債利回りはほぼ横ばいとなりました。  
為替は、2日比で円/ドルレートは円高・ドル安、円/ユーロレートは円高・ユーロ安となりました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

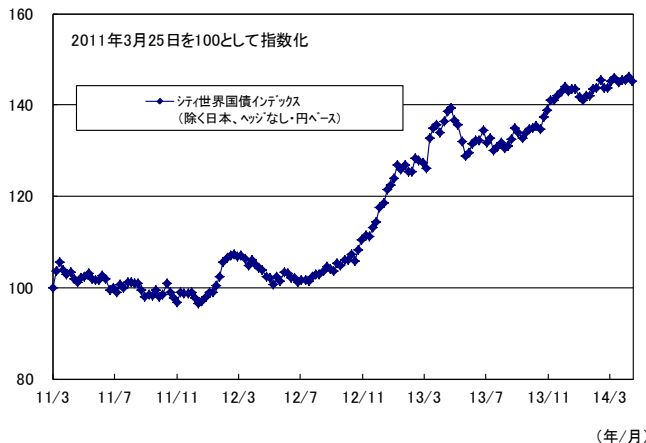
- 13日発表 独ZEW景況感指数(5月)
- 13日発表 米小売売上高(4月)
- 15日発表 ユーロ圏GDP(1-3月期、速報値)
- 15日発表 米CPI(消費者物価指数、4月)
- 16日発表 米住宅着工件数(4月) など

	2014/5/2	2014/5/9	変化幅
米国10年国債利回り*	2.58%	2.62%	0.04%
ドイツ10年国債利回り*	1.45%	1.46%	0.01%

騰落率がプラスの場合: 😊  
騰落率がマイナスの場合: 😞  
騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
-0.75%	😞

<期間>2011年3月25日~2014年5月9日



シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	2014/5/2	2014/5/9	騰落率
	416.71	413.58	-0.75%
円/ドル	102.25円	101.71円	-0.52%
円/ユーロ	141.77円	139.92円	-1.31%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成  
<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Global Markets Inc.の知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関する全ての権利は、Citigroup Global Markets Inc.が有しています。

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。 ・REITとは、不動産投資信託証券を指します。

## J-REIT市場

### 市場の動向

J-REIT市場(東証REIT指数(配当込み))は、2日比で0.36%上昇しました。一部投資家から買いがあったことなどが背景にあります。

三鬼商事が発表した4月末時点の東京都心5区の平均空室率は6.64%となり、前月末の6.70%から0.06%低下しました。4月は大規模ビルを含めた新築ビルの竣工や大型解約の影響が出ていたものの、移転需要が堅調に推移したことや館内増床に伴う成約の動きが見られたことから、同地区における空室率が低下しました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 12日発表 景気ウォッチャー調査(4月)
- 15日発表 GDP(1-3月期、1次速報値)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率

0.36%

先週の相場動向



<期間> 2011年3月25日～2014年5月9日



東証REIT指数(配当込み)	2014/5/2	2014/5/9	騰落率
	2,523.57	2,532.60	0.36%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成  
東証REIT指数の指数値及び東証REIT指数の商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、東証REIT指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数に関するすべての権利及び東証REIT指数の商標に関するすべての権利は東証が有します。

## 世界のREIT市場

### 市場の動向

世界REIT市場(S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み))は、2日比円ベースで、0.95%上昇しました。

米国REIT市場(現地通貨ベース)は、FRB議長が議会証言で、引き続き緩和的な金融政策が必要であるとの認識を示し、金利の上昇に対する懸念が後退したことなどから上昇しました。

欧州REIT市場(現地通貨ベース)は、ECB総裁が6月に追加緩和に動く用意があるとの見解を示したことなどを受けて上昇しました。

豪州REIT市場(現地通貨ベース)は、4月の失業率が市場予想を下回ったことなどが背景となり上昇しました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 13日発表 独ZEW景況感指数(5月)
- 13日発表 米小売売上高(4月)
- 15日発表 ユーロ圏GDP(1-3月期、速報値)
- 15日発表 米CPI(4月)
- 16日発表 米住宅着工件数(4月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

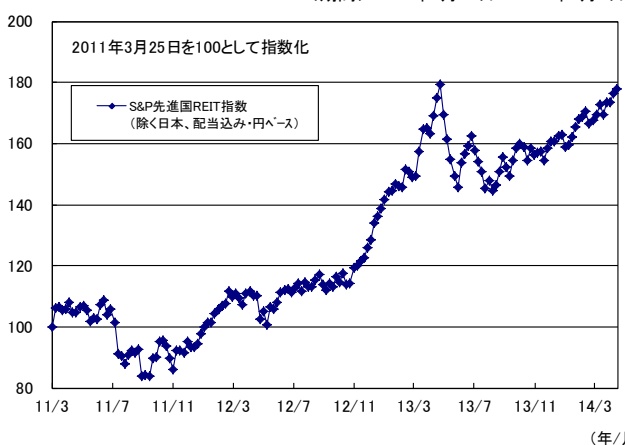
先週の騰落率

0.95%

先週の相場動向



<期間> 2011年3月25日～2014年5月9日



S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み・円ベース)	2014/5/2	2014/5/9	騰落率
	689.22	695.77	0.95%
円/ドル	102.25円	101.71円	-0.52%
円/ユーロ	141.77円	139.92円	-1.31%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成  
<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

S&P先進国REIT指数はスタンダード&プアーズファイナンシャルサービスズ エル エル シーの所有する登録商標です。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

## 新興国の株式市場

### 市場の動向

新興国株式市場全体の動きを表す代表的な指数であるMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、2日比円ベースで0.15%下落しました。

中国株式市場(現地通貨ベース)は、4月の中国HSBC製造業PMI確定値や、4月のCPIが市場予想を下回り、景気減速懸念が高まったことなどから下落しました。

ロシア株式市場(現地通貨ベース)は、同国の大統領がウクライナ国境からロシア軍を撤退させたと報じられ、ウクライナ情勢をめぐる緊張がさらに高まるとの懸念が後退したことなどから、上昇しました。

ブラジル株式市場(現地通貨ベース)は、同国の大統領の支持率低下を示す世論調査が発表され、経済政策変更への期待が高まったことや、3月の鉱工業生産指数が市場予想を上回ったことなどから上昇しました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 13日発表 中国鉱工業生産指数(4月)
- 15日発表 ブラジル小売売上高(3月)
- 15-16日発表 ロシアGDP(1-3月期)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

先週の騰落率

先週の相場動向

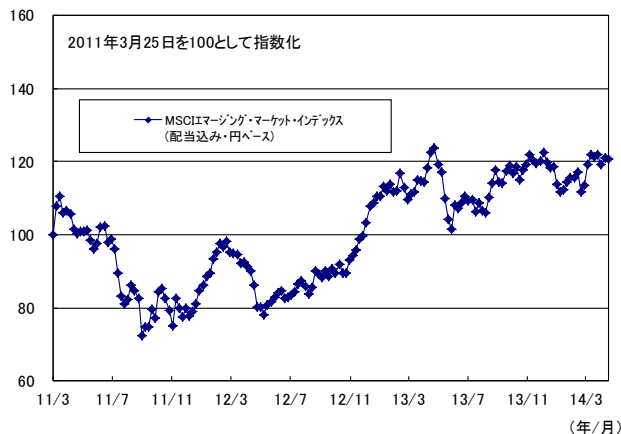
騰落率がマイナスの場合: 😞

-0.15%



騰落率が横ばいの場合: 😐

<期間> 2011年3月25日~2014年5月9日



MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み・円ベース)	2014/5/2	2014/5/9	騰落率
	1,661.48	1,659.06	-0.15%

<出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

## 新興国の債券市場

### 市場の動向

新興国債券市場全体の動きを示す代表的な指数であるJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドは、2日比円ベースで、0.45%上昇しました。

南アフリカでは、総選挙が実施され、与党のANC(アフリカ民族会議)が過半数の議席を獲得しました。政権の安定性や政策の連続性が維持されるとの見通しなどを背景に、同国の債券指数は上昇しました。

メキシコでは、4月のCPIが前月より低下し、インフレの鈍化傾向が確認されました。こうした投資環境の中、同国の債券指数は上昇しました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 12日発表 メキシコ鉱工業生産指数(3月)
- 13日発表 トルコ経常収支(3月)
- 14日発表 南アフリカ小売売上高(3月)
- 15日発表 ブラジル小売売上高(3月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

先週の騰落率

先週の相場動向

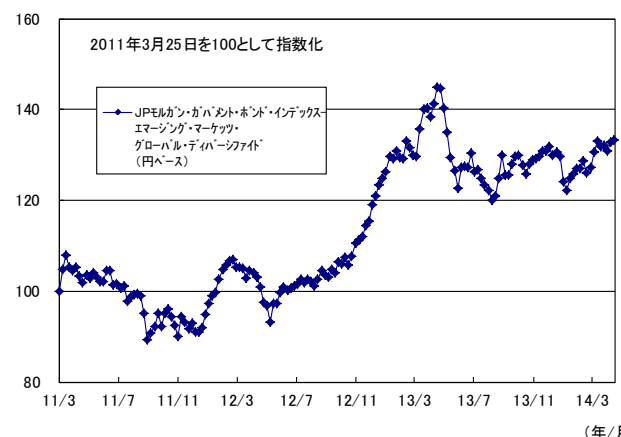
騰落率がマイナスの場合: 😞

0.45%



騰落率が横ばいの場合: 😐

<期間> 2011年3月25日~2014年5月9日



JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)	2014/5/2	2014/5/9	騰落率
	258.49	259.64	0.45%

<出所> ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(JP Morgan Government Bond Index-Emerging Markets Global Diversified)は、J.P.Morgan Securities LLCが公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

## 【野村アセットマネジメントからのお知らせ】

### ■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

### ■投資信託に係る費用について

2014年5月現在

<p>ご購入時手数料 《上限4.32%(税込み)》</p>	<p>投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。投資信託によっては、換金時(および償還時)に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。</p>
<p>運用管理費用(信託報酬) 《上限2.1816%(税込み)》</p>	<p>投資家はその投資信託を保有する期間に応じたかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 *一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 *ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。</p>
<p>信託財産留保額 《上限0.5%》</p>	<p>投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。</p>
<p>その他の費用</p>	<p>上記の他に、「組入価値証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧下さい。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

商号:野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会:一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。